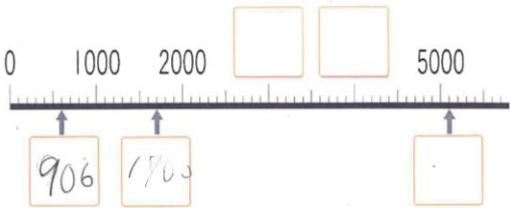
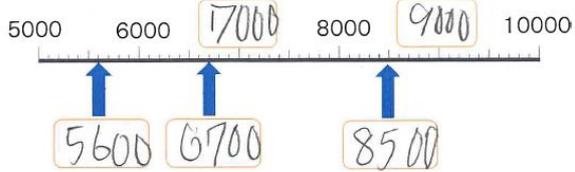
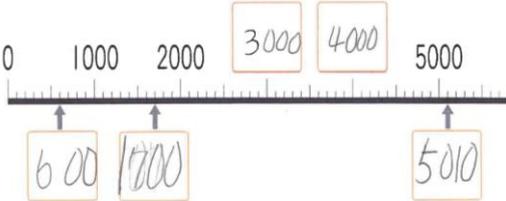
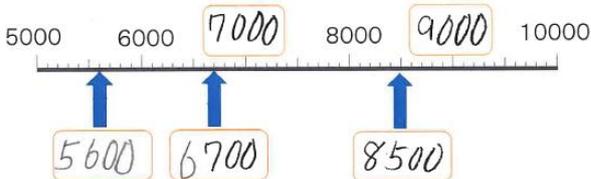
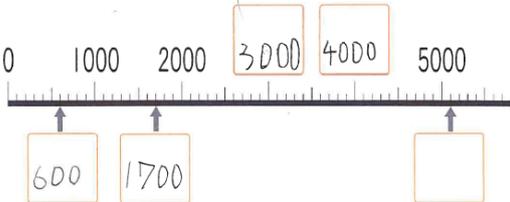
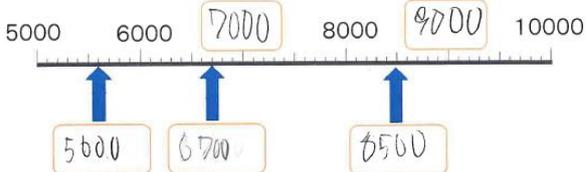


授業日時/教科・単元 2020年1月17日/算数・4けたの数

授業者 2年 担任 教材作成者 安達恵

1. 児童生徒の学習の評価 (授業前後の変化)

(1) 3名の児童生徒を取りあげて、同じ児童生徒の授業前と授業後の課題に対する解答がどのように変化したか、具体的な記述を引用しながら示して下さい。実技教科等で児童生徒の直接の解答が取れない場合は、活動の様子の変化について記して下さい。

児童生徒	授業前	授業後
1	 <p>0と1000の間のめもりを数えた後に、906と書き、その後1700と書いたが自信が持てず消してしまい、解答用紙を隠し、そのまま解答時間が終了した。</p>	 <p>エキスパート資料を通して、1000が10こに分かれており一めもり100と気が付いたが、ジグソーで説明することはできず、「わからない。」と答えた。しかし、おわりのプリントでは時間内にすべて解答することができた。</p>
2	 <p>最初は一めもりを10と読み、進めていたが、3000を埋めた際、一めもり100ということになんとなく気づき、書き換えたが、5010は誤答のままだった。</p>	 <p>中くらいの線の意味について、「これがあることで、500とわかりやすくなるし、間違えにくくなる。」と説明した。おわりのプリントでは100ずつ増える規則性を見つけ、正しく読むことができた。</p>
3	 <p>ゆっくりとめもりを見て、3000、4000の部分から埋めた。 時間がきたため、解答を終了した。</p>	 <p>クロストーク時に、なぜ一めもり100なのかという発問に対して、「せんが9本だから。」という言葉を使って説明した。線の本数ではなく、その間を考えられているか課題はあるが、おわりのプリントでは、中くらいの線を活用して、早く解答することができた。</p>

(2) 児童生徒の学習の成果について検討して下さい。授業前、授業後に児童生徒が答えられたことは、先生の事前の想定や「期待する解答の要素」と比べていかがでしたか。

授業前には、十進位取記数法が理解できている児童とそうでない児童が二極化しており、理解できている児童は、大きなつまずきもなくめもりがいくつにわかれているか、いくつを十等分するとよいかを考えることができていた。一方で、十進位取記数法に対する理解が十分でない児童は、めもりがいくつに分かれているかを数えて、その次はどこみるのかわからない。という段階であった。

授業後の様子を見ると、学習したことを活かして、いくつといくつの間が、いくつにわかれているかを考え始めていた。今回の場合、5000から6000の間が10こにわかれているから、一めもりいくつで数えるとぴったり6000になるのかを考えればよい。という見方ができるようになった。

以上の点から授業のねらいはほぼ達成できたと考える。しかし、数直線のめもりの間には連続数として数が存在する感覚や、一めもり10や20になった場合にどれだけ本時の内容を活用することができるかという課題は残る。

2. 児童生徒の学習の評価（学習の様子）

児童生徒の学習の様子はいかがでしたか。事前の想定と比べて、気がついたこと、気になったことをあげてください。

数の線を読むときに大切なことをみつけようという目標に向かって、話し合いながら説明できるようになるという姿勢が見られた。

また、中くらいのめもりの意味を理解できると、数直線を0に近い方から読んでいくのではなく、読みたいめもりの位置によって見始める場所を変えると早く読み取れることに気付くことができていた。その姿から数に対する感覚が育っていることが見取れた。しかし、クロストーク時に、なぜ一めもり100なのかという発問に対して、「せんが9本だから。」という言葉を使って説明した児童の姿を見て、線の本数ではなく、その間について考えること、連続数であることなどの見方ができていないということが気になった点である。

3. 授業の改善点

児童生徒の学習の成果や学習の様子を踏まえ、次の3点について今回の授業の改善点を挙げて下さい。

(1) 授業デザイン（課題の設定、エキスパートの設定、ゴールの設定、既有知識の見積もりなど）
エキスパート活動時に、一人の課題にならないよう、書き込むことができる大きなシートを1枚のみ配布したことで、相手意識が強まり話し合いがより一層全体のものになった。ゴールの設定として、ポイントとなるものを3つに絞って進めたが、児童によってさまざまな発見があり、まともに苦労しているようだった。

(2) 課題や資料の提示（発問、資料の内容、ワークシートの形式など）

エキスパート資料において、ヒントとして1000までの十進位取記数を記載した。しかし、「1が10こで10」という書きぶりだったため、児童が説明の際にうまく使うことができなかった。ヒントとしては「10は1が10こ」という書きぶりの方が活用しやすかったと考えられる。

クロストーク時は、タブレット等で数直線を拡大したり縮小したりして提示することも考えたが、めもりを見取ることさえ困難な場合がある児童は違う課題だと錯覚することへの配慮として、拡大等ができない数直線で説明を行わせた。しかし、やはり、めもりがいくつにわかれているのかなどを見せる場合、大きく見えやすいものを用意した方が説明に活用しやすかったと思われる。

(3) その他（授業中の支援、授業の進め方など）

なんとなく1000が10こにわかれていること、一めもり100なことがわかっているが、うまく言語化できない児童に対して、学年も考慮してどこまで言語化させるか、ヒントとして使える言語をどのように提示しておくか、支援を考えたい。